

かながわ避難者と共にあゆむ会 神奈川散歩カフェ2016 テーマ・旧東海道を歩く 日本橋から箱根まで

東日本大震災の関係で神奈川に避難されている方々の親睦と健康づくり、そして神奈川の地域を知ってもらうために神奈川近郊の名所・旧跡を季節に合わせて案内する「神奈川散歩カフェ」を企画しました。解散の後は参加者同士で各自お食事を楽しんでもらいたいと思います。この「神奈川散歩カフェ」を一緒に企画し運営していただける避難者の方を募集しています。2015年度より保険料と資料代として一人200円の参加費をお願いすることになりました。

2016年度は「旧東海道を歩く・・・日本橋から箱根まで」とテーマを決めて連続して旧東海道を歩きます。ただし歩く時間が短いので旧東海道の全てのコースを歩くことはせずポイントを訪ねて歩きたいと思います。

5月14日(土) 旧東海道・品川宿を歩く

午前10時 JR 品川駅西口改札前集合 参加費200円



品川宿

品川宿（しながわしゆく、しながわじゆく）は、東海道五十三次の宿場の一つ。東海道の第一宿であり、中山道の板橋宿、甲州街道の内藤新宿、日光街道・奥州街道の千住宿と並んで江戸四宿と呼ばれた。

慶長6年(1601年)に、中世以来の港町として栄えていた品川湊の近くに設置され、北宿、南宿、新宿にわかれていた。場所は、現在の東京都品川区内で、北は京急本線の北品川駅から南は青物横丁駅周辺までの旧東海道沿い一帯

に広がっていた。目黒川を境に、それより北が北品川宿、南が南品川宿、北品川の北にあった宿を歩行新宿（かちしんしゆく）といった。

品川宿は五街道の中でも最重要視された東海道の最初の宿であり、西国へ通じる陸海両路の江戸の玄関口として大いに賑わい、旅籠屋数や参勤交代の大名通過数においても他の江戸四宿を圧倒していた。

東海道五十三次（とうかいどうごじゅうさんつぎ）

江戸時代に整備された五街道の一つ、東海道にある53の宿場を指す。古来、道中には風光明媚な場所や有名な名所旧跡が多く、浮世絵や和歌・俳句の題材にもしばしば取り上げられた。

なお五十三次と称す場合は京都までの場合であり、さらに大阪までを加えて東海道五十七次とする説もある。

飲み物持参・小雨決行 12時頃に解散する予定ですので弁当は各自の判断でお持ちください。

「神奈川散歩カフェ」

- ・避難者対象 参加費200円 定員20名
- ・毎月原則として第2土曜日 10時集合 12時頃解散予定 飲み物持参
- ・当日受付。事前申込は必要ありません。
- ・ガイドが案内します ・小雨決行 ・都合によりコースや距離が変更される場合もあります。
- ・主管 NPO 法人神奈川県歩け歩け協会・問い合わせ先 高坂 090-2729-1246

次回案内

6月11日	土	川崎宿	JR 川崎駅改札口10時集合	解散 12時頃鶴見駅
-------	---	-----	----------------	------------